



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

プロ・ライフ・サミット



1991年11月11-14日、バチカンの家庭問題評議会主催の生命尊重運動サミットに参加する機会を得た。40数カ国150人参加のこのサミットの初日は、東京大会にも見えた評議会議長ロペス・トルヒリョ枢機卿、ウイルク博士の基調講演、2日目には教皇も臨席、30分に亘るスピーチの後、各国代表への個人謁見があった。毎日地域ごとに各国からの報告があり、私は二日目午後のアジアの時間帯に10分日本の生命尊重運動の現状と展望について述べた。欧州ではRU-486、安楽死立法化の危機、インド、アフリカ、及びラテンアメリカ各国からは人工抑制と中絶、家族計画の問題が提起された。目新しかったのはポーランド、ハンガリー、クロアチア、スロバキアが参加、報告したことで、自由化後、西洋から退廃した性思想、中絶容認の風潮が入

り、それとの戦いの報告が生々しかった。このサミットの基調をスローガンの言葉で、「受精から自然死まで」の人間生命の尊重である。政治的、経済的強者が弱者、とりわけ胎児と臨死の最弱者の命をないがしろにしている現代の死の脅威の時代をキリストの愛による「生きる喜び」の時代にしなければならぬ。会議前日にIRLHの理事会があり、報告ののち私が理事に加えられた。また、菊田博士への弔意があり、皆で冥福を祈った。

阿南成一

日本生命尊重

推進協議会長

国際生命尊重会の理事

(日本の代表)

南山大学社会論理学

研究所長

赤ちゃんだとは

知らなかった

ある若い女性が22歳になるまでに3回も中絶をした。「お腹が大きくなる」と不自由になるし、学校は途中で辞めなくてはならないし、いままで胎児の発育についての教育を全然受けたことがなかった。中絶がいけない事だなんて思ったことがなかった。」

この女性が31歳になった時、ある晩の集会で中絶を問題にした映画を見、彼女は自分が今まで何をしていたかという現実に気がついた。その映画で胎児の陳列を見、現実には、私が3人の子供を殺したという事は大変なショックでした。私は泣き出してしまいました、私が病院にいた時どこにあの胎児のモデルがあったのだろうと思っ

た。」

望まずに妊娠してしまつた女性は、度々、子宮の中で発育している子供が人間であるということ

の10週目からは、胎児の鼓動がはっきり認められる。11週目にはまだ見ぬ子は完全に形造られる。12週目後赤ちゃんの体で新しく形成されるものは何もありません。全てのものがミニチュアサイズで揃っている。後は、どんどん大きく、そしてたくましくなるだけである。

純潔であることの実地的理由

(第一部)

自由・愛・セックスは、どの大人や青年、そして思春期にある少年少女にとつても関心のあることです。正しい理解と実行

は、あなたの成長を助けるでしょう。誤解や誤つた実行は、あなた自身や周りの人たちに惨めな思いや問題を残すことになるでしょう。これら一連の記事は、あなたが後になつてありがたいと思うようになり、今年、来年、卒業後、そしてずっと永遠に幸せであり続けるための理解と実践に向けて、あなたの力になるように意図されています。

「私にはあなたを愛して

います」などです。この

「愛」の対象が人やセックスに關するようになると、愛やセックスの的確な意味を知ることがとても重要になつてきます。

セックスと愛は自動的に

つながつてはいけません。

結婚していても、そうではないのです。性革命は、約

30〜40年前に、人工的な産

児制限や無制限のセックス、そして小さな家族とい

うものがより幸せな結婚

生活を生み出すのだとい

う概念を掲げて、起こりま

した。しかし、事態はそう

簡単ではなかった。つま

り、今日結婚したカップル

の半分が離婚しているの

です。

愛がセックス以上のも

のであるということは明

確であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠であるべきです。愛は永

遠の約束です。愛は思いやりです。愛は忍耐と親切です。愛は決してセックスを強要しません。愛は自分自身を相手に捧げることで、愛は、セックスを結婚の象徴とみなします。

つまり、独身者にとって愛するということは、セックスしないということです。もしそのように考えないのなら、本当の愛は手に入れ難いものとなります。

もし愛することが簡単なら、離婚者数が現在のようによくいるでしょうか。愛することと感情と一緒に考えて間違いを起こさないようにしてください。感情は移り変わるものです。愛はすべての困難に耐えられるものです。

自由。これは何でしょう？理解するのに一番簡単な自由は肉体的自由です。あなたは人間以外の生物としてではなく、人間としてのみ発達する自由があります。あなたは鳥のよ

うには飛べません。すでに経験から分かっているとありますが、例えば、1〜2キロ止まらないで走って自由を得ることのように、身体的な自由の中には犠牲を払って獲得されなければならぬものもあります。自由がただでないことくらい心の中では分かっているでしょう。自由の獲得は大変なことなのです。

身体的な自由は、他者の権利によって制限されま

す。言論の自由は、混雑した百貨店の中で「火事だ」と叫ぶことを許しません。集会の自由とは、通りの真

ん中で夕食を食べていいということではないのです。今日のすべての大問題は、道徳的自由に関連しています。道徳的自由とは、正しいことをする能力のことです。新聞を読んでご覧なさい。そうすれば、強奪、強姦、幼児虐待、殺人などの記事を見つけて

しょう。どの記事でも、誰かが自らの身体的自由を不道徳な方法で用いているのです。つまり、身体的な自由が乱用されているのです。だから、本当の意味で自由ということは、正しいことをする力のことなのです。

本当の性的自由は、強姦したり誘惑したりというような、身体的に可能な行動をとることを意味する

ものではありません。本当の性的自由とは、セックスを結婚の象徴としてみなし、尊重することを意味する

のです。 本当の性的自由は労苦を伴うものであって、簡単に手に入れることのできるものではありません。それは、性的誘惑に対して

ZOと言えることであり、性的関係への圧力へZOと言えることなのです。ZOと言える努力をしなければならぬのです。セルフコントロールを養わなく

てはならないのです。性的なセルフコントロールの力を純潔と言います。これは、自己中心的でなくなるようにする精神的なエネルギーです。またこれは、愛とセックスについての本当の意味をよりよく理解するのに役立ち、あなたを様々な自由の理解へと導いてくれるでしょう。

課題

今は、「母性」ということを発言するのがとっても難しい時代ですね。というのは、人類が生きていくための生命の根源を伝達していくのが母性ですが、その母性の尊さというものを男性が唱えるというのは、女性に再び家庭に戻れということであり、男女同権を脅かすことである、という分脈になってしま

うわけです。そういう社会的な状況が、今、先進諸国に起こっているわけですね。

最近のお母さんたちの一つの現象として、ゆっくりとした気持ちで、子供に応答してやる時間とか機会というものを、だんだんと持てなくなってきました。ということがあります。心ここにあらず、というお母さんが増えてきています。こういうお母さんたちのことを、私たちは、「母性拒否症候群」と呼んでいます。

子供を生んでも育てる気がしないから、実家のお母さんに世話をさせるとか、子供を持って祝福されるべきはずなのに、かえってうつ病になる。いわゆるマタニティー・ブルー、これが非常に多いですね。あるいは、この子さえ生まれなければ自分は課長になれるのにか、もう少しで学位論文が完成するのに、どうして妊娠しちゃった

のだろつ、というつような人が結構多いわけです。悪い言い方をすれば、今生まれてくる子供の半分くらいは、いわゆる失敗作。バーヌ・コントロールの失敗で生まれてくる子供がかなりいるんです。子供を作る、作らない、生む、生まないということは、本当は神の摂理、天の恵みであるはずのものを、人間が自分の意志で作ったりやめたり、自由意思で左右することができると考えてしまったという、これが二十世紀における人間の精神的な最大の課題、ある意味では危機的な課題ではないかという気がします。

慶応義塾大学医学部

助教授 小此木 啓吾

家庭の友 1989.11月号

(中央出版社) より抜粋

国内ニュース

《幼い母からの

メッセージ》

17歳の男の子と女の子ががんばって赤ちゃんを生んだ。妊娠を打ち明けたとき、親たちは本人の将来、そして生まれてくる子供の将来のためと、命を「処理」するように迫った。話し合いが行きづまったとき、突然男の子が叫んだ。

「お母さん達にぼく達の赤ちゃんを奪う権利があるのか。ぼく達の赤ちゃんを殺してどんな幸せになれるというのか」と。

この一言が両親を変えた。そして、かわいい双子の赤ちゃんが生まれた。あれだけ反対した親たちが苦しい出産に臨んだ彼女を励まし、赤ちゃんの産声に歓声を上げたのだ。

* * *

15歳の女の子が赤ちゃんを生んだ。その子の卒業式の日、同級生の友達が答辞を読んだ。「私は彼女の日記を読みました。そこには、もし私のお母さんが中絶していたら、今の私はなかったと思います。一度は中絶しようと考えたけれど、私のなかに一人の子の命があると思うとかわいそうでならなかった」と書いてあり、彼女の心の豊かさに感動しました。彼女の気持ちはここにきているお父さん、お母さんが私達をかわいいと思うのと同じです。」と。

このことは新聞や雑誌でも取り上げられ、興味本位で書き立てられてしまった。性の低年齢化をことさら驚いて見せ、大人社会の性の在り方には触れず、評論家が無責任な意見を羅列していた。

一方周りの人に支えられて赤ちゃんは元気に

育つていった。もちろん一人の人間を育てるとい

ことは並大抵のことではない。本人も周りの人もその赤ちゃんをめぐって悩んだりもした。でも彼らを支えたのはその赤ちゃん自身であったという。

5月7日、突然赤ちゃんは亡くなった。生後8か月という短い人生を閉じた。わが子の名前を呼び続け「行くなー」と叫ぶ若い母親とその兄弟達の涙を忘れることはできない。この小さな赤ちゃんのために実に数百人の人達が駆けつけ、みな自分のことのように涙を流した。悲しみの中にも暖かい世界をかいま見た。

* * *

今日、十代の性を嘆く前に、安逸な生活のために生命を抹殺する「常識」を問い直したい。この「常識」が横行したとき、人は人を踏みつけ、差別をし、最後

には戦争さえもし得るといふことを心に刻みたい。

松浦 悟郎

1990.8.15 / 聖書と典礼

国際ニュース

【教皇ヨハネ・パウロ・

パウロ 世の声】

教皇ヨハネ・パウロ二世は、全世界に向けて1月1日、世界平和を呼びかけるメッセージを送られたが、その中で生まれる前の赤ん坊を殺す中絶行為を止めるよう呼びかけられた。「殺してはいけない」福音書で云われている平和のメッセージは、いつもこの新しい戒律を思い出させるのである。「他人を殺してはいけない。まだ母体の子宮の中に存在しようとも、受胎が行われたその瞬間からその生命を人とも

なし、それを殺してはいけない。なぜなら全ての人間の生命は万人に共通する遺産であるのだから。生命を推進する人間であれ。決して破壊者にはなるなから。『パウロ 世はまた、生命は人間の基本的な権利である。』とも述べられた。その権利はたとえまだこの世に生まれていなくとも、誰もが持つているものである。一度受胎によって生命が与えられた以上、その生命が「死」へと続く過程におかれていていいものだろうか。

【静かなる声】

「ある者が、自分の兄弟を踏みつけ、彼がこの世の空気を一息も吸わない前に沈黙させてしまうことがある。」これはアイルランドの作家クリスティ・ノーランが中絶のことを文学者の聴衆に対し述べた言葉である。

ノーランは今21歳であるが、脳性小児麻痺にかかり、自分で身体の動きをコントロールすることも、食事をとることも、話すこともできなかつた。彼は目を動かすことによつてのみ意思を伝えることができた。そして、彼が11歳になつた時、新しい薬のおかげで首を動かすことができるようになり、タイプライターと額に付けた棒で詩を書き始めたのだつた。

ノーランは、自分たちで意見を述べることができないう何世代にもわたる深刻な障害を抱えている人々の代弁者としての自分の意味を深く捉えている。彼は「障害を抱えた人々に対する理解と受け入れが深まることを望んで、障害を抱えた人々の世界に光を投げかけることしよう」としている。

彼の生命のための戦いに対する貢献は非常に歓迎されている。

読者の声

先日、あるご婦人(65才)の方が、21才の女の人が37才の男の人の子を業場で身ごもり、母親は「おろしなさい」と云っていると言ひ、その21才なのに、しっかりとっている子と云ひ、その子は、子どもが出来るとは思わなかつたと！性交、結婚の神聖さは、世の中の人は、知らなすぎます。クリスチャンより、世の中の人へテレビにラジオに、雑誌に、新聞に、学校保健に、若者たちに、青少年センターに、病院に、etc、訴えてください。

(無記名)

この資料

この資料を読んで、世の中、随分バカな人が多いと思つておどろいた。私は老化をストップさせ、若返ら

せるため、ハタ・ヨーガ、ラージャ・ヨーガの瞑想をやつてゐるため、56才の年齢にもかわらざすべすべの肌、クリームなどぬつたことなし。どう見ても40才位に見えるそつだ。体力、若い頃よりはるかにあり、どこへでもスタスタ歩く。高校時代の友人、医学博士の兄を3人持ち、医学的にいいことしているはずなのに体力が衰えた、眠れない、あそこが痛い、ここが痛いといつて、4キロ位は平気でどこへでも歩き回る私に劣等感を感じるといつている。この原因、妊娠失敗するたび、一度流産で生命を落としそうになつて怖いので、たびたび中絶を行ったからと思える。私は風邪引いたことなし、18才の時のようなエネルギーもある。これはひとえに、自然な生活をして、修行し、自分の体を神の神殿とし、大切に扱い、私の中におられる創造主を見たてまつるよう心がけてゐるから神のお恵みとして心身共に健康でいられると感謝している。カラーゲンなんてもつてのほか。そんなものぬりたくつても若返るはずはないと思ふ。カラーゲン配合をぬりたくつて不摂生な生活をしたり、中絶しまくつて、シワだらけの顔になつてもそれは自業自得というものだ。若返りたかつたら物質にたよらず、自分の体を大切にし、節度のある生活をし、健康増進に役立つよう努力するしかないと思ふ。

年とつてボケて来た、夜が眠れない、私にはおかしくておかしくて笑いが止まらない。年とつてますます頭も冴え、雷が落ちてもわからない位グツスリ眠るのだから。世の中の方が狂つていて、バカだと気がついた。私の美容法、全くもつてただ。神様からいただいた空気を吸つて、食物

若者の声

をバランスよく少量いただき、どこへでも歩いていく、いつも安定した精神になるよう努力することが私の化粧だと思っている。

『LOVEの責任考えはじめた子供たち』

仮に胎児のことなど考えない、自分のことだけを考へるとしても、中絶など無縁の生活をして、健康的な生活をするのが最高のオシャレだと思っている。お陰様で、ダイエットなど気にしたこともなく、バランスのとれた食事を腹八分目にとっているだけである。年をとったら体力が衰え、老化が始まると思いつめるのはあまり賢いとはいえないのではないか。山の娘ハイジのような生活が、健康への最大の秘訣ではないだろうか。コラーゲンなんかぬりたくって若返りを信じている人に、「今夜、水子の祭りでお化けが出るぞ。」と驚かしてやった。

(永井真美子)

気持ちで、子供の人生を作ってしまうなど責任重大である。

(高1・男)

私は中絶した人に言いたいです。もし、自分が自分の母親から捨てられたら、どんな気持ちになりますか？自分が子供の気持ちになつて考えたら、中絶する人は少しでも減少していくと思います。

(中1・女)

生まれてこないかぎり人間ではないなんて事はなく、生命をもった時から一個の人間なのです。皆、もう少し人間らしい考えを捨てないでほしいです。

(高1・女)

生命の尊さについてもっと考えるべきです。赤ちゃんの生命を、いずれは自分が育てなければならぬというのを心に止めておくべきです。赤ちゃんだって、生きる権利はあるはずです。

(高1・女)

命を育む

ユイメール 1

「自己イメージ」

私が宮古教会に赴任するようになって、今年で四年になります。宮古へ来る前に本土各地の教会で勤務いたしました。その中でもここ宮古島が一番素晴らしい所だと実感しております。宮古の人はフレンドリーで純朴で、又、何よりも、ユイメール(助け合い)の精神にとんでおります。

私が見たところ、宮古では大都会のように、しのぎを削るような激しい競争もなく、むしろ、お互いが助け合っているかのような感さを受けます。公害も余りありませんし、自然や環境にも恵まれています。こうして、いろいろな方面から考え合わせますと、宮

古はまさにパラダイス(楽園)、天国のような所だとさえ思えてなりません。

又、ここ数年、トライアスロンの影響もあってか、宮古はとみに国際的になってきました。さて、われわれ人間にとって地球のどこに住んでいても、大切なことのひとつに対人関係があります、この対人関係をスムーズにするための「自己イメージ」といわれる自分自身に対する物の見方、感じ方についてお話してみたいと思います。

私たちは得てして自身を過小評価し、「つまらない者」と思いがちです。そのうえ些細なことから生きる喜びを見失ってしまうことさえ少なくありません。そうやってくると対人関係はおろか、生きていくことさえむづかしくなつてきます。

確かに自分自身の弱さや汚れを見つめる事は辛

いことです。しかし、そういう自分の欠点を素直に認め、欠点を直すために毎日努力することはとても大切な事です。

私たちが自分の心の中を見つめる時、そこには弱さや汚れだけでなく「特別な個性」「自分らしさ」があることに気付くに違いありません。私は誰にでも必ず、他の人とは違ったユニークな個性があるものと考えます。ギリシヤ人はこれをカリスマと呼びます。特別なカリスマを持つ代表的な人物として私はマザーテレサを挙げたいと思います。

私は、人間にとって一番中心となるものは「心」であり、従つて、「心の持ち方」はとても大切なことだと考えます。

われわれ人間はふだん、無意識のうちに自分の周りにいる人達を二つのグループに分けてしまします。例えばグループを二重

の輪にした時、内側の輪には家族や親せき、親しい友人等、自分にとってかけがえのない人達が入ります。そして、外側の輪にはそれ以外の人達、いわゆる他人や自分にとって何の益にもならない(と考えられる)人達が入ります。外側の輪にいる人達に対して、われわれは憎む事はないにしても、概して無関心な態度を取つてしまします。いわゆる自分に何の関係もない人はまったく赤の他人と考えてしまうのです。

しかし、キリスト教の精神から言いますと、全人類はひとつの家族であり兄弟姉妹なのです。聖書の言葉に「己の如く他人を愛せよ」とありますが、人間には誰でも、周りの人を大切にできる心があるものと信じております。又、そのように神様は私たちをお作りになったのです。

私たちは、自分自身の価

値を認めると同時に他人の価値も認めます。一人ひとりが自分に与えられた特別な、「持ち味」(個性)を生かし、開かれた心と広い心を持つて、よりよい世界になるように努力することは本当に素晴らしいことです。私たちは皆、弱い罪人ですが、神様の前ではわれわれ人間の一人ひとりが素晴らしい個性を持った傑作なのです。ですから私たちの誰もが、神様にとっては「特別な存在」であり、「大切な人」なのです。

皆が与えられた持ち味(個性)を生かし、また、互いに認め合いながら人間としての道を一緒に歩いていきましょう。

エリック・タンペ神父

ABORTION

QUESTIONS & ANSWERS

中絶手術の安全性は？
赤ちゃん殺されることは容認し難いことだが、女性が中絶する以上安全が確保されなければならぬ。

中絶が禁止されると闇中絶が増え、多くの女性が命を落とすことになるだろうという主張は、赤ちゃんを殺すことである中絶を社会に容認させるための脅しに過ぎない。女性たちは赤ん坊殺し産業の単なる犠牲者だ。

中絶は女性に心身共に影響を及ぼす。例えば、十代の未熟な子宮に施された中絶手術は、彼女のこれからの人生に影響を与えるだろう。14歳で妊娠したとすると、この時期はまだ子宮は発育中である。中絶手術が原因で不妊になる

可能性もあるのである。つまり、中絶は赤ちゃんを殺し、女性たちの子宮を破壊しているのだが、どのくらいの被害が出ているのか正確には分からない。

《事務所だより》

希望に輝く新しい年に入り、1月20日プロ・ライフ・ムーブメントを志す人達が集まり、日本生命尊重推進協議会が形成されました。その代表者の南山大学教授、阿南氏が昨年11月14日から3日間、バチカンで開かれた生命尊重運動のサミット会議に出席され、その時の事を1月19日付けカトリック新聞の論壇に、今こそ生命尊重を主題して、発表されておられるので、読まれた方も多いと思います。(戦争は人殺しだからと平和運動している人々が経済的理由の中絶に賛成しているのは矛盾であり、平和運動の良心を疑うと言われた女流作家がおられた。)と書かれていました。この婦人のような考えの人が一人でも多くなるように願ってやみません。

私は一月末より、この事務所でもポトニー先生の事務的なお手伝いをさせていただく事になりました。大岡です。このお仕事を与えてくださった事を喜び、感謝しております。至らない事が多いと思いますが、よろしくお願い申し上げます。

プロ・ライフ・
ムーブメント

